

3-5 東洋日本美術史

研究・教育活動の概要と特色

東洋日本美術史専攻分野は、大正12年(1923)5月に設置された文化史学第二講座をその前身とし、法文学部創立以来の長い伝統を有している。その間、多くの人材が輩出し、特に全国の美術館・博物館で学芸員として活躍する卒業生の多いことが特筆される。

現在の二名の教員はいずれも仏教美術を専門とする。この点は諸大学に比して本専攻分野を特色づけるものだ。1996年度以来、本専攻分野は科学研究費基盤研究(A)を受給し、東北地方を中心とする仏教美術調査を継続している。その間、基礎データ及び画像資料の蓄積に努め、中尊寺金色堂諸像の調査などで大きな成果をあげてきた。

研究面ではこのように仏教美術研究に大きな特色があるが、一方、教育においては、分野・時代を狭めるのではなく、柔軟な視野に立ち、幅広い知識を求めることができる人材の育成に務めている。また、美術史の基礎的な方法である作品観察の技術を自分のものとしてできるよう、多くの作品を入念に見ることを指導している。科研費の調査には大学院生も主力として参加し、実作品に触れる有効な機会を得ている。近年は、中国や韓国など東アジアの各地において、作品調査をおこなう機会も多い。

研究室は夜を徹して学ぶ学生のために開放されており、学部学生を大学院生が指導するという光景も日常的なものとなっている。

組織

1 教員数(2011年9月末現在)

教授：2

准教授：0

講師：0

助教：1(助手)

教授：泉武夫、長岡龍作

2 在学生数(2011年9月末現在)

| 学部 (2年次以上) | 学部 研究生 | 大学院博士 前期 | 大学院博士 後期 | 大学院 研究生 |
|---------------|-----------|-------------|-------------|------------|
| 10 | 0 | 5 | 10 | 0 |

3 修了生・卒業生数（2007～2011年度）

| 年度 | 学部卒業生 | 大学院博士課程 前期修了者 | 大学院博士課程 後期修了者 (含満期退学者) |
|----|-------|------------------|------------------------------|
| 07 | 5 | 2 | 0 |
| 08 | 3 | 1 | 0 |
| 09 | 3 | 3 | 2 |
| 10 | 2 | 2 | 1 |
| 11 | 0 | 0 | 1 |
| 計 | 13 | 8 | 4 |

* 2011年度は、9月末までの数字

過去5年間の組織としての研究・教育活動（2007～2011年度）

1 博士学位授与

1-1 課程博士・論文博士授与件数

| 年度 | 課程博士授与件数 | 論文博士授与件数 | 計 |
|----|----------|----------|---|
| 07 | 0 | 0 | 0 |
| 08 | 0 | 0 | 0 |
| 09 | 0 | 1 | 1 |
| 10 | 1 | 0 | 1 |
| 11 | 1 | 0 | 1 |
| 計 | 2 | 1 | 3 |

* 2011年度は、9月末までの数字

1-2 博士論文提出者氏名、年度、題目、審査委員

畠山浩一、2009年度、岩佐又兵衛と近世初期風俗画に関する研究、泉武夫（主査）・尾崎彰宏・長岡龍作

竹浪遠、2010年度、唐宋変革期における山水画の主題に関する研究、泉武夫（主査）・佐竹保子・尾崎彰宏・長岡龍作・芳賀京子

塚本麿充、2011年度、北宋三館秘閣における文物の収集・公開活動と「北宋絵画史」の成立、泉武夫（主査）・尾崎彰宏・長岡龍作・大野晃嗣・芳賀京子

2 大学院生等による論文発表

2- 1 論文数

| 年度 | 審査制学術誌 (学会誌等) | 非審査制誌 (紀要等) | 論文集 (単行本) | その他 | 計 |
|----|------------------|----------------|--------------|-----|----|
| 07 | 1 | 3 | 0 | 1 | 5 |
| 08 | 2 | 2 | 1 | 1 | 6 |
| 09 | 1 | 2 | 1 | 3 | 7 |
| 10 | 1 | 2 | 0 | 2 | 5 |
| 11 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 計 | 5 | 9 | 2 | 7 | 23 |

* 2010 年度は 9 月末までの数字。ただし、以後の掲載が決定しているものも含む。

2- 2 口頭発表数

| 年度 | 国際学会 | 国内学会 | 研究会 | その他 | 計 |
|----|------|------|-----|-----|----|
| 07 | 1 | 1 | 8 | 0 | 10 |
| 08 | 0 | 2 | 6 | 0 | 8 |
| 09 | 0 | 1 | 8 | 0 | 9 |
| 10 | 0 | 1 | 8 | 0 | 9 |
| 11 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 計 | 1 | 5 | 30 | 0 | 36 |

* 2010 年度は 9 月末までの数字。ただし、以後の発表が決定しているものも含む。

2- 3 上記の大学院生による論文・口頭発表の中の主要業績

(1) 論文

海野啓之、醍醐寺三宝院弥勒菩薩坐像についての一解釈 弥勒の図像を手がかりに、美術史、163、108-126 頁、2007 年 11 月

海野啓之、平安時代後期から鎌倉時代における仏菩薩像光背に関する研究、鹿島美術研究、年報 26 号別冊、392-403 頁、2009 年 11 月

海野啓之、仏像光背と祈りの構造 平安後期「飛天光」と平等院鳳凰堂、美術史学、30、87-116 頁、2010 年 3 月

小野朋子、仁和寺阿弥陀三尊像の宗教的機能 天皇追善のための造像、美術史学、28、23-48 頁、2008 年 3 月

坂本明子、佐賀県立名護屋城博物館蔵「肥前名護屋城図屏風」の研究、鹿島美術研究、年報 26 号別冊、436-446 頁、2009 年 11 月

- 坂本明子、十六世紀の日本における地図と都市図、都市を描く 東西文化にみる
地図と景観図、159-210 頁、2010 年 3 月
- 高橋沙矢佳、金剛峯寺蔵八大童子像について 像とそれをめぐる営み、仏教芸術、
41-64 頁、2010 年 7 月
- 竹浪遠、アジアの美術を楽しむ(16)黒川古文化研究所の中国美術 大正・昭和前期
の関西が育んだコレクション、アジア遊学、99、162-166 頁、2007 年 7 月
- 竹浪遠、唐代の樹石画について—松石図を中心に—(下)、古文化研究、7、1-56
頁、2008 年 2 月
- 竹浪遠(杉本欣久共著)、[調査報告]黒川古文化研究所所蔵の日本・中国絵画
の画絹について、古文化研究、8、86-115 頁、2008 年 10 月
- 竹浪遠、(伝)李成「喬松平遠図」(澄懷堂美術館)について 唐代樹石画との
関係を中心に、国華、1369、5-22 頁、2009 年 11 月
- 竹浪遠、北宋における李成の評価とその文人画家像形成について 子孫・鑑賞者・
李郭系画家との関わりから、古文化研究、9、45-76 頁、2010 年 3 月
- 塚本麻衣子、向源寺十一面観音像の頭上面図像について 平安初期観音信仰に関
する試論、美術史学、28、49-66 頁、2008 年 3 月
- 塚本麻衣子、唐招提寺金堂諸像の機能と構成に関する研究、鹿島美術研究、年報
27 号別冊、2010 年 11 月
- 塚本麿充、宋代皇帝御書の機能と社会—孝宗「太白名山碑」(東福寺蔵)をめぐ
って、美術史論集、7、10-30 頁、2007 年 2 月
- 塚本麿充、藤固と矢代幸雄：ロンドン中国芸術国際展覧会(1935-36)と中国芸術史
学会(1937)の成立まで、日本フェノロサ学会機関誌、27、1-18 頁、2007 年 3 月
- 塚本麿充、古物がつくる社会:中華の宝、台湾の誇り：国立故宮博物院八〇周年「大
観-北宋書画、汝窯、宋版図書特展」参観記、日本フェノロサ学会機関誌、27、
38-41 頁、2007 年 3 月
- 塚本麿充、崇高なる山水・郭熙山水の成立とその意義 北宋三館秘閣の文化的機
能を中心として、特別展図録「崇高なる山水 中国・朝鮮、李郭系山水画の
系譜」、123-135 頁、2008 年 10 月
- 塚本麿充、高麗・朝鮮時代初期の宮廷コレクション、アジア遊学、120、16-27 頁、
2009 年 3 月
- 中村里那、宗達筆「舞楽図屏風」考 醍醐寺清瀧宮および朝廷との関わりを中心
に、美術史学、31 / 32 (合併号)、29-54 頁、2011 年 3 月
- 濱田恒志、東大寺法華堂天平期諸像の研究—尊像構成と機能について—、仏教芸

- 術、302、33-52 頁、2009 年
- 濱田恒志、東大寺法華堂執金剛神像をめくって—後戸安置と霊像化—、美術史学、
29、123-142 頁、2009 年 3 月
- 原浩史、東寺講堂諸像と『金剛頂経』、美術史、166、358-375 頁、2009 年 3 月
- 原浩史、興福寺講堂不空羼索観音菩薩像の造立と南円堂移座 先考先妣の為の造
像と像のその後、「奉為の造像」研究、28-47 頁、2010 年 3 月
- 原浩史、古代の講堂に安置された仏像に関する研究、鹿島美術研究、年報 27 号別
冊、2010 年 11 月
- 望月望、藤原京薬師寺本尊の造立年、美術史学、31 / 32 (合併号)、13-28 頁、2011
年 3 月

(2) 口頭発表

- 坂本明子、佐賀県立名護屋城博物館蔵「肥前名護屋城図屏風」にみる景観表現、
平成 18 年度東北大学若手研究者萌芽研究育成プログラム「地図と都市景観図
にみる異文化受容の様相—15 世紀から 17 世紀におけるアジアとヨーロッパ
の出会い—」定期研究会第 2 回、2007 年 10 月 28 日
- 柴橋大典、尾形乾山「定家詠十二ヶ月和歌花鳥図角皿」に関する一考察、美術史学会
全国大会、2009 年 5 月 24 日
- 高橋沙矢佳、金剛峯寺蔵八大童子像について—高野山をめぐる女性願主の造像—、
美術史学会全国大会、2008 年 5 月 31 日
- 濱田恒志、東大寺法華堂天平期諸像に関する研究、美術史学会全国大会、2007 年
5 月 27 日
- 原浩史、顕教美術と密教美術 東寺講堂諸像を例として、J A W S、2007 年 11 月
- 原浩史、東寺講堂諸像の機能と『金剛頂経』、美術史学会全国大会、2008 年 5 月
31 日
- 原浩史、興福寺講堂不空羼索観音菩薩像の造立と南円堂移座、彫刻史研究会、2010
年 7 月 17 日

3 大学院生・学部生の受賞状況

原浩史、第 8 回美術史学会論文賞 (2010 年)

4 日本学術振興会研究員採択状況

なし

5 留学・留学生受け入れ

5- 1 大学院生・学部学生等の留学数

なし

5- 2 留学生の受け入れ状況（学部・大学院）

| 年度 | 学部 | 大学院 | 計 |
|----|----|-----|---|
| 07 | 0 | 0 | 0 |
| 08 | 2 | 0 | 2 |
| 09 | 1 | 1 | 2 |
| 10 | 2 | 0 | 2 |
| 11 | 0 | 2 | 2 |
| 計 | 5 | 3 | 8 |

6 社会人大学院生の受け入れ数

| 年度 | 前期課程 | 後期課程 | 計 |
|----|------|------|---|
| 07 | 1 | 1 | 2 |
| 08 | 1 | 0 | 1 |
| 09 | 0 | 0 | 0 |
| 10 | 0 | 0 | 0 |
| 11 | 1 | 0 | 1 |
| 計 | 3 | 1 | 4 |

7 専攻分野出身の研究者・高度職業人

7- 1 専攻分野出身の研究者

井上大樹 大分県立歴史博物館学芸員 2008 年度

濱田恒志 ふくやま美術館学芸員 2008 年度

五月女晴恵 北九州市立大学准教授 2008 年度

井上大樹 文化庁文化財調査技官 2009 年度

海野啓之 東北大学文学部助手 2010 年度

7- 2 専攻分野出身の高度職業人

なし

8 客員研究員の受け入れ状況

なし

9 外国人研究者の受け入れ状況

なし

10 刊行物

『美術史学』 年刊 (美学・西洋美術史専攻分野と共同発刊)

11 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催・事務局等引き受け状況

なし

12 専攻分野主催の研究会等活動状況

修学会(美術史研究会)

2007年度 5月16日、7月17日、11月1日、11月20日、11月28日、
1月22日、2月8日

2008年度 4月22日、4月24日、7月3日、9月18日、1月22日、
3月18日

2009年度 4月23日、5月19日、6月5日、6月9日、8月7日、
9月15日、11月13日、12月4日

2010年度 4月28日、7月13日、7月20日、7月25日、8月25日、
9月6日、3月10日

13 組織としての研究・教育活動に関する過去5年間の自己点検と評価

本専攻分野の過去5年間の活動には特記されるべき点がいくつかある。

第一に、2006年～2008年度に基盤研究(A)(1)「東日本に分布する宗教彫像の基礎的調査研究 古代から中世への変容を軸に」(研究代表者有賀祥隆)をおこなったことである。調査作例についての詳細なデータと図版を掲載したこの研究の成果報告書は2010年3月に刊行された。本専攻分野が1996年以来継続しているこの基礎調査は、教員と大学院生が連携してマネジメントし、学外の分担者の協力を得ておこなっている。多年の運営経験は組織的なルーチンを作り上げた。この研究が挙げている成果については、『月刊文化財』2006年5月号が特集した「最新の彫刻史研究」に寄稿を求め

られた長岡が「東国の仏像 東北大学の科学研究費による研究成果」を書いて紹介しており、すでに学界においても注目されるものとなっている。

第二には、2011 年度から第一で述べた活動を継承するかたちで基盤研究（A）「生身と靈験 宗教的意味を踏まえた仏像の基礎的調査研究」が開始されたことである。本研究のメンバーが主導することによって近年関心の高まりを見せている仏像の宗教的意味を、広範囲な仏像調査をおこないながらより精緻に解明しようとするこの研究は、今後の仏教美術研究にとって重要な成果を生むものとして期待される。

第三には、博士課程に在籍している大学院生が、継続的に学芸員として採用されていることである。多くの採用があった 2005 年度に続き、2008 年度に二名、2010 年度にも期限付きながら一名が学芸員として採用された。また、2008 年度は一名が大学教員に採用された。これは、院生それぞれの努力の賜物であると同時に、本専攻分野の教育の成果が社会的にも認知されたものとして理解したいできごとである。その後も、全国大会で注目される発表をおこなう者が続いており、人材は継続的に育っているといえる。

第四には、2009 年度から文学研究科に歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成課程が新設され、当専攻の大学院生もキュレーター養成コースに登録し、それぞれ独自の計画で作品の調査研究を行う活動もスタートした。大学院生の自主性を重視し、しかも予算の手当も行うこれまでにない試みであり、すでに日本国内のみならず海外での調査も開始されている。これらは将来の学芸員の資質を養成する上で、貴重な体験となるものと期待される。

以上の通り、過去 5 年間の本専攻分野の活動には評価されるべき点はあると考えている。一方、各地の美術館・博物館に眼を向ければ、指定管理者制度が導入され、学芸員採用の形式も変化しつつあるなど、博物館行政は今大きな転機を迎えている。これらの機関に多くの人材を提供してきた本専攻分野には、これからの博物館を担う新たな人材を育ててゆく責務があると考え、この点を今後の方向として示して総括としたい。

教員の研究活動（2007～2011 年度）

1 教員による論文発表等

1- 1 論文

長岡龍作「彼岸・因果・表象 仏教美術への開かれたアプローチとして」『日本
仏教総合研究』6 31-52 頁 2008 年 5 月

長岡龍作「救済と表象 「中尊寺供養願文」寺院に投影された意味について」『季
刊東北学』16 号 66-83 頁 2008 年 7 月

- 長岡龍作「中尊寺創建伽藍における「一基の塔」と「中尊」」 『平泉 みちのく
の浄土』展図録 134-137頁 2008年11月
- 長岡龍作「古代日本の「生身」観と造像」 『美術史学』29号 35-60頁 2009
年3月
- 長岡龍作「仏教における靈験—仏が感応する場と表象」 『死生学研究』第12号
230-266頁 東京大学大学院人文社会系研究科 2009年10月
- 長岡龍作「高清水善光寺阿弥陀如来像と中世の生身観」 『仏教芸術』307号 51-69
頁 2009年11月
- 長岡龍作「みちのく・肖像の風景」 三浦秀一編 『東北人の自画像』所収 1-39
頁 東北大学出版会 2010年2月
- 長岡龍作「「奉為の造像」論—主体・祈願・表現」 『科学研究費補助金基盤研究(B)
研究成果報告書「奉為の造像」研究』 4-27頁 2010年3月
- 長岡龍作「平泉の美術と仏教思想」 『兵たちの時代3 兵たちの極楽浄土』 66-96
頁 高志書院 2010年6月
- Nagaoka Ryusaku "Buddhist Spiritual Manifestations: The Places and Forms of the
Buddha's Spiritual Resonance", *Bulletin of Death and Life Studies, Vol. 6, pp.17-59,*
The University of Tokyo, 2010
- 長岡龍作「仏像から見る古代日本の仏教」 『新アジア仏教史 第13巻 日本仏
教の定着』 331-363頁 佼成出版社 2010年11月
- 長岡龍作「靈験と観音像」 『美術フォーラム21』第22号 30-36頁 2010年11
月
- 長岡龍作「兜率天往生の思想と表象」、『科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果
報告書「兜率天往生の思想とのかたち」』、50-70頁、2011年4月
- 泉武夫「仏教美術研究の近年の動向と隣接諸学との接点」 『日本宗教文化史』21
号、48-56頁、2007年5月
- 泉武夫「六道絵の作風と絵師の分類」、『国宝 六道絵』、195-214頁、中央公論
美術出版、2007年11月
- 泉武夫「北野天満宮「舞楽図」衝立について 古代末期～中世初期の楽舞の状況
から」、『美術史学』29号、1-33頁、2009年3月
- 泉武夫「特異な星辰神の図像とその象徴性」、『佛教芸術』309号、13-39頁、2010
年3月
- 泉武夫「天皇の仏画—『門葉記』にみる三壇御修法の本尊制作」、『科学研究費
補助金基盤研究(B)研究成果報告書「奉為の造像」研究』（研究代表者長岡

- 龍作)、48-64 頁、2010 年 3 月
- 泉武夫「定印観音の一遺例 常照皇寺本の紹介」、泉武夫、『国華』1375 号、7-17 頁、査読無、2010 年 5 月
- 泉武夫「黒漆八角宝珠箱の金銀泥絵像とその意味」、『佛教藝術』312 号、13-46 頁、2010 年 9 月
- 泉武夫「兜率天弥勒と兜率天宮図の系譜」、『科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書「兜率天往生の思想とそのかたち」』、3-49 頁、2011 年 4 月
- 海野啓之「弥勒彫像荘嚴具にみる平安後期・鎌倉時代の弥勒信仰 醍醐寺三宝院弥勒菩薩像光背における空間的位相」、『科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書「兜率天往生の思想とそのかたち」』、71-96 頁、2011 年 4 月

1-2 著書・編著

- 長岡龍作『日本の仏像 飛鳥・白鳳・天平の祈りと美』 中央公論新社(中公新書) 2009 年 3 月
- 長岡龍作『週刊朝日百科 国宝の美』通巻 11 号(彫刻 3 白鳳・天平の金銅仏) 朝日新聞出版 2009 年 11 月(監修・著)
- 泉武夫編著『日本美術史ハンドブック』(共編著)、新書館、2009 年 3 月
- 泉武夫『週間朝日百科 国宝の美』通巻 20 号(絵画 7 仏教絵画 3) 朝日新聞出版 2009 年 12 月(監修、共著)
- 泉武夫『仏画の尊容表現』、中央公論美術出版、2010 年 10 月

1-3 翻訳、書評、解説、辞典項目等

- 長岡龍作「チベット 河口慧海と多田等観請来品の世界」 『東北大学の至宝 資料が語る 1 世紀』展図録、61-70 頁、2007 年 9 月
- 長岡龍作「中尊寺金色堂壇上諸像」 『仏教新発見 15 中尊寺』 16-17 頁 朝日新聞社 2007 年 9 月
- 長岡龍作「善光寺式阿弥陀像」の人気の謎」 『仏教新発見 16 善光寺』 12-13 頁 朝日新聞社 2007 年 10 月
- 長岡龍作「法華堂の仏像」 『別冊太陽 東大寺』 平凡社 2010 年 10 月
- 長岡龍作「上原昭一先生の思い出」 『美術史学』第 31/32 号 183-184 頁 2011 年 3 月
- 泉武夫「《愛染明王像》とその歴史的 position」 『木村定三コレクション研究報告書 1』13-17 頁、2007 年 3 月

泉武夫「特論 中尊寺経（紺紙金銀字一切経）をめぐって 金剛峯寺蔵中尊寺経の調査のことども」、特別展覧会目録『平泉 みちのくの浄土』、NHK、2008年11月

泉武夫「清衡の威信「中尊寺経」」、河北新報、2008年12月10日

泉武夫「青不動」解説、『古寺巡礼 京都30 青蓮院』、淡交社、119-123頁、2009年2月

泉武夫「第二回國華賞奨励賞選評」、『國華』1370号、2009年12月

翻訳

ジャッキー・エルガー、アン・ニシムラ・モース、リチャード・ニューマン共著「法華堂根本曼陀羅に関する科学的研究」（泉武夫訳）、『美術史学』27号、105-119頁、2007年3月

1-4 口頭発表

長岡龍作「彼岸と表象 仏教美術の機能についての基礎的考察」、美術史学会全国大会招待発表、於九州大学、2007年5月25日

長岡龍作「仏教における「靈験」 仏が感応する場と表象」 公開・国際シンポジウム「死生と造形文化 礼拝像と奇跡 東西比較の試み」 2008年5月31日 於東京大学

長岡龍作「美術から見た平泉の信仰 「表象」の仏教的意味を中心に」 シンポジウム「都市平泉と列島の中世」 2008年7月26日 於平泉ホテル武蔵坊

長岡龍作「仙台 美術のある風景、風景のある美術」 杜の都まちづくり広場ワークショップ「霊場・城下町・学都 杜の都仙台誕生の軌跡」 エルパーク仙台スタジオシアター 2009年2月20日

長岡龍作「隋仁寿舍利塔と青州勝福寺址」 国際シンポジウム「中国北朝後期から隋唐期の山東仏教石刻と東アジア」 明治大学博物館教室 2009年5月16日

長岡龍作「山水と表象 その宗教的機能を中心に」 美学会例会 成城大学 2009年7月11日

長岡龍作「日本美術にみる自然表現と宗教観」 訪問講座「日本とアジア」 ロシア・ノボシビルスク大学 2009年11月19日

長岡龍作「仏像と風景—仏への祈りの場とは何か」 特別公開講座「古代と現代を結ぶ文化遺産としての風景」 京都嵯峨藝術大学 2010年1月16日

長岡龍作「山水と仏像 仏教的実践の場と表象の機能」 コロンビア大学国際シン

ポジウム「Image and Objects in Japanese Buddhist Practice」 2010年10月8日
長岡龍作「東北地方の仏教文化と慈恩寺」 慈恩寺シンポジウム 2010年12月11日

長岡龍作「行為と感応の場としての空間 表象の読み方を考える」 空間史学研究会シンポジウム[空間を記述せよ 方法・史料・表象をめぐる] 2011年9月7日

泉武夫「東アジア宗教におけるイメージ・図像・象徴への美術史的アプローチ」、
印度学宗教学会学術大会シンポジウム招待講演、金沢大学、2009年5月30日

泉武夫「平安後期から鎌倉前期の仏教儀礼における図像・画像の役割—可視と不可視の間で—」、国際シンポジウム「前近代の日本におけるあらたな法会・儀礼学の構築をめざして—ことば・ほとけ・図像の交響」、ロンドン大学 SOAS、2011年5月12日

泉武夫「栖雲寺の画像をめぐる」、国際シンポジウム「日本に現存するマニ教絵画の諸問題」、大和文華館、2011年6月5日

海野啓之「仏像光背考 仏教彫刻の靈驗性と“空間史”」、第2回空間史学研究会、東北大学文学部、2011年2月15日

2 教員の受賞歴（2007～2011年度）

井上大樹 第5回『美術史』論文賞（2007年）

教員による競争的資金獲得（2007～2011年度）

（1）科学研究費補助金

長岡龍作（研究代表者）2006年～2007年度 萌芽研究「仏教美術のトポロジー—
仏像のいる土地とその意味に関する基礎的考察」、2006年1,100,000円・2007
年1,400,000円

長岡龍作（研究代表者）2006年～2009年度 基盤研究（B）「「奉為の造像」研
究」、2006年3,830,000円・2007年3,080,000円・2008年2,300,000円・2009
年2,700,000円

長岡龍作（研究分担者）2006年～2008年度 基盤研究（A）「東日本に分布する
宗教彫像の基礎的調査研究—古代から中世への変容を軸に—」、2006年
14,600,000円・2007年11,100,000円・2008年11,900,000円

長岡龍作（研究分担者）2007年度～2010年度、基盤研究（B）「兜率天往生の思

想とのかたち」 2007年 4,986,000円・2008年 1,920,000円・2009年 1,900,000円・2010年 2,500,000円

長岡龍作(研究分担者)2009年度～、基盤研究(B)「隋唐時代の仏舎利信仰と荘厳に関する総合的調査研究」、2009年度 4,900,000円・2010年度 5,300,000円

長岡龍作(研究代表者)2010年～2012年度 基盤研究(C)「感応と表象—美術の宗教的機能に関する基礎的考察」、2010年度 1,200,000円・2011年度 900,000円

長岡龍作(研究分担者)2011年度～ 基盤研究(A)「生身と靈験 宗教的意味を踏まえた仏像の基礎的調査研究」、2011年度 14,400,000円

泉武夫(研究分担者)2006年～2008年度 基盤研究(A)「東日本に分布する宗教彫像の基礎的調査研究 古代から中世への変容を軸に」、2006年 14,600,000円・2007年 11,100,000円

泉武夫(研究分担者)2006年～2009年度 基盤研究(B)「「奉為の造像」研究」、2006年 3,830,000円・2007年 3,080,000円・2008年 2,300,000円

泉武夫(研究代表者)2007年度～2010年度、基盤研究(B)「兜率天往生の思想とのかたち」 2007年 4,986,000円・2008年 1,920,000円・2009年 1,900,000円・2010年 2,500,000円

泉武夫(研究分担者)2009年度～ 基盤研究(B)「隋唐時代の仏舎利信仰と荘厳に関する総合的調査研究」、2009年度 4,900,000円 2010年度 5,300,000円

泉武夫(研究分担者)2011年度～ 基盤研究(A)「生身と靈験 宗教的意味を踏まえた仏像の基礎的調査研究」、2011年度 14,400,000円

井上大樹(研究分担者)2006年～2007年度 基盤研究(B)「「奉為の造像」研究」、2006年 3,830,000円・2007年 3,080,000円

井上大樹(研究分担者)2006年～2007年度 基盤研究(A)「東日本に分布する宗教彫像の基礎的調査研究 古代から中世への変容を軸に」、2006年 14,600,000円・2007年 11,100,000円

井上大樹(研究分担者)2007年度、基盤研究(B)「兜率天往生の思想とのかたち」 2007年 4,986,000円

海野啓之(研究代表者)2010年～2011年度 研究活動スタート支援「仏像を納める荘厳具 厨子 に関する調査研究 古代・中世の仏像観を主眼に」、2010年度 1,170,000円、2011年度 1,170,000円

海野啓之(研究分担者)2011年度～ 基盤研究(A)「生身と靈験 宗教的意味を踏まえた仏像の基礎的調査研究」、2011年度 14,400,000円

(2) その他

海野啓之(研究代表者) 2011年度～平成23年度三菱財団人文科学研究助成金、
「日本古代・中世における厨子と東アジア—意匠・意味・流通に関する対外交渉史的学際研究」、1,500,000円

教員による社会貢献(2007～2011年度)

長岡龍作

仙台市文化財保護審議会委員(2002年度～現在)

國華賞選衡委員(2011年～)

「念仏・懺悔・往生 平泉美術と仏教思想」 平泉文化史講座 2007年11月10日

「奈良時代興福寺の仏像」 興福寺仙台講座 2007年12月21日

「みちのく・肖像の風景 聖人・祖師・先祖」有備館講座「東北人の自画像」
2008年1月19日

「美術にみる平泉の信仰」 特別展「平泉 みちのくの浄土」講演会 仙台市博物館 2008年11月29日

「護国と救済 律令制下陸奥国の仏像と信仰」 奥州市歴史講座 奥州市・江刺生涯学習センター 2008年12月6日

「麗しき仏像 日本人の祈りと美」 リビングカレッジ2009 エル・パーク 仙台セミナールーム 2009年9月15日

「仏像と風景～日本人の祈りの世界～」 NHK文化センター郡山教室一日講座 2010年4月24日

「日本から見たチベット美術」 仙台市博物館「聖地チベット ポタラ宮と天空の至宝」展講演会 2010年5月15日

キトラ古墳壁画四神特別公開記念討論会コメンテーター 文化庁・奈良文化財研究所 2010年5月30日

「仏像に会う楽しみ」 東北大学学友会文化部講演会 2010年7月1日

「奥六郡域の薬師如来像について」 奥州市歴史講座 2010年7月31日

「奥六郡域の毘沙門天像について」 奥州市歴史講座 2010年8月28日

「「正倉院宝物」から天平を想う」 八木山市民センター主催講座 2011年2月22日

「寧波・杭州・台州—美術で旅する日本仏教の故郷」 NHK文化センター特

別公開講座 2011年6月4日

泉武夫

国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策検討会作業会委員（2006年～2008年3月）

宮城県文化財審議委員（2008年～）

宮城県美術館協議会委員（2008年～）

仙台市博物館協議会委員（2008年～）

國華賞選衡委員（2005年～現在）

文化庁文化審議会専門委員（2009年2月～）

日本学術振興会特別研究員等審査会専門委員及び国際事業委員会書面審査員
（2009年8月～2010年7月）

大仙市専門指導顧問（2009年～）

「「応徳涅槃図」の醍醐味」、奈良国立博物館第36回夏期講座『院政期の絵画』、2007年9月21日

「美麗なる仏画 虚空蔵菩薩像」、東京国立博物館月例講演、2007年9月29日

「尺八野外コンサート」、東北大学植物園・みどりの日、2008年5月4日

「絵画から平安時代を読む」、有備館講座「時代を読む」、2008年5月17日

「日本文化の芽ばえ 京都から」、斎理講座「学問で世界一周」、2009年8月1日

「尺八野外コンサート」、東北大学市民オープンキャンパス・紅葉の賀、2009年11月3日

「仏画と古典を結ぶ」、宮城県国語教育研究会春季総会講演、仙台第三高等学校、2010年5月7日

「王朝時代の美の価値観と中尊寺経」、東北文化公開講演会、2010年7月10日

「キリスト聖像の可能性-栖雲寺蔵伝虚空蔵菩薩画像について-」、天目山栖雲寺「虚空蔵菩薩画像」お披露目会と記念講演会、2010年7月24日

教員による学会役員等の引き受け状況（2007～2011年度）

長岡龍作

美術史学会東支部常任委員 2004年5月～2008年5月、2010年～

泉武夫

美術史学会東支部委嘱委員 2008年～2009年

美術史学会東支部常任委員 2009年～

教員の教育活動

(1) 学内授業担当 (2011年度)

1 大学院授業担当

教授 長岡龍作

東洋・日本美術史特論 ・

東洋・日本美術史研究演習 (前期)

課題研究 (東洋日本美術史)

教授 泉武夫

東洋・日本美術史特論 ・

東洋・日本美術史研究演習 (後期)

課題研究 (東洋日本美術史)

2 学部授業担当

教授 長岡龍作

東洋・日本美術史基礎実習

東洋・日本美術史各論

東洋・日本美術史演習

東洋・日本美術史講読

東洋・日本美術史概論 (第4セメスター)

教授 泉武夫

東洋・日本美術史基礎実習

東洋・日本美術史各論

東洋・日本美術史基礎講読

東洋・日本美術史概論 (第3セメスター)

3 共通科目・全学科目授業担当

なし

(2) 他大学への出講 (2007 ~ 2011 年度)

長岡龍作

金沢美術工芸大学非常勤講師 2001 ~ 2008 年度

沖縄県立芸術大学美術工芸学部非常勤講師 2008 ・ 2010 年度

泉武夫

山形大学人文学部非常勤講師 2010 年 11 月